

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：江戸時代の漢籍を見る ILAS Seminar :Observing the Woodblock-printed Chinese Classics in the Edo			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授 古勝 隆一 人文科学研究所 助教 楊 維公		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	10(8)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	人文科学研究所 本館(総合研究 4号館) 4F 401(共同研究室4) (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	本 / 書物 / 漢籍 / 江戸時代 / 京都大学						
[授業の概要・目的]							
この授業では、江戸時代から明治時代にかけて木版印刷された「漢籍」の実物を手に取って観察します。漢籍とは、前近代の中国人が中国語で著した書物を指しますが、そのうち日本で刊行されたものは「和刻本漢籍」と呼ばれます。京都大学には、そうした和刻本漢籍が数多く集められており、この授業では、主に吉田南総合図書館のコレクションを対象として考察します。 前近代の東アジアにおいて、書物の形式は、写本(手書きの本)・版本(木版を刷って紙に転写した本)の二つが主流でしたが、これらの本は、現在、馴染みの薄いものになってしまいました。書物の歴史は、文理を問わず、人類の知恵の集積の歴史であり、書物は基本的な学術資料です。江戸時代の版本に直接触れることは、基本的な学術資源に触れることを意味します。そこに載せられているテキストや図版のみならず、一冊の本が生み出された時代や場所、製作手法、流通や受容を知ることを目指します。 古い本は貴重な文化財でもあります。手を清潔に洗って、教室に来てください。							
[到達目標]							
・本(和本・線装本)の取り扱いと見方を習得する。 ・書物とは何か、本とは何かを理解する。 ・研究した成果を口頭発表するスキルを身につける。							
[授業計画と内容]							
1. イントロダクション：和刻本漢籍について 2. 和刻本漢籍に触れる際の注意点 3. 和刻本漢籍の基礎知識(1) 4. 和刻本漢籍の基礎知識(2) 5. 実習*(1) (*実習は、漢籍の実物に即して、書誌学的な記録を作成するものである。方法は授業中に指示する。以下、同様。) 6. 実習(2) 7. 実習(3) 8. 日本にとって漢籍とは何だろうか 9. 実習(4) 10. 実習(5) 11. 実習(6) 12. 実習(7)							
----- ILASセミナー：江戸時代の漢籍を見る(2)へ続く! ! !							

ILASセミナー：江戸時代の漢籍を見る(2)

13. 研究発表（１）
14. 研究発表（２）
15. フィードバック

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・授業への主体的な参加：60%
- ・個別発表：40%

*「個別発表」について：この授業の第13回・14回に、「研究発表」を予定しており、受講者は、「実習」で取り上げた漢籍につき、一人一点選び、独自の観点から15分程度の発表をおこなうものとする。事前に、スライドかプリントを準備し、教員及び他の受講生の前で、口頭発表をおこなう。

【教科書】

中野三敏『江戸の板本—書誌学談義』（岩波書店、2015年、岩波現代文庫）ISBN:9784006003395（入手が難しい者については別途、方法を考える）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・あらかじめ、紙のノートと鉛筆（シャープペンシル不可）を準備しておくこと。それらを毎回、授業に持参すること。
- ・実習の記録をノートすること。
- ・各自の研究発表に向けて、問題意識をもって取り組むこと。
- ・以下のマニュアルの内容を理解しておくこと。

https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/mainlib/wp-content/uploads/img/service/guide_japanesestylebooks_jpn.pdf

【その他（オフィスアワー等）】

【主要授業科目（学部・学科名）】